

Market plunge: This is not 2008

BlackRock®

コロナウイルスの感染拡大を受けた金融市場の大規模な動きは、過去の世界金融危機を思い起こさせます。しかし、ブラックロックはこの動きは2008年とは異なると考えています。このウイルスショックの影響は大きく急激ですが、投資家は落ち着いて長期的な視点に立ち投資を続けるべきでしょう。経済は以前よりも強固な土台の上にお立ち立っており、金融システムは2008年に危機に突入したときよりもはるかに強固です。

ブラックロックは、予防的かつ協調的な政策対応がなされることを考慮すると、今回の下落局面が景気拡大を終わらせるには至らないと考えています。こうした政策対応が実を結びつつあることが期待できる兆候も見始めています。しかし、実現にはさらなる財政面と金融面の協働かつ断固たる取り組みが求められるでしょう。対応する必要がある脆弱な部分は、企業（特に中小企業）や家計が直面する流動性の問題です。

BII（ブラックロック・インベストメント・インスティテュート）は2週間前に、コロナウイルスの感染がグローバルに拡大し始めたタイミングで、ややリスクをとるスタンスから中立に投資スタンスを見直しました。各国・地域の当局には、医療機関における収容力の限界によるウイルス感染拡大を防ぐために、移動制限などの積極的な公衆衛生策を進める強いインセンティブがあります。これは短期的に、急激かつ大幅な経済の減速をもたらす可能性が高いと考えています。

金融市場の動きは、OPECの価格を安定させる協定が反故にされ、原油価格が20%以上下落する中で（1日の下落率としては1990年代の始めに見られた水準に匹敵）、さらに増幅されています。原油価格の下落は結果として、グローバルの経済成長には好影響となるでしょうが、少なくとも一時的には、新興市場の資源輸出企業や米国のハイールド企業の一部など、エネルギーへの依存度が高いセクターにおいて金融面や経済面で支障をもたらす可能性があります。

投資家は長期の視点を維持することが重要です。コロナウイルスが経済におよぼす影響が最終的にどの程度大きく、どれくらいの期間続くのかは不透明感が強い状況ですが、必要な政策対応がなされることを前提とすれば、ウイルス感染の拡大はいずれ終息し、経済活動が正常化するため、ショックは一時的なものになると考えています。

ブラックロックは株式についてはベンチマーク並みのウエイトを維持するスタンスとし、クオリティやミニマム・ボラティリティのようなスタイル・ファクターの特性を持ったディフェンシブな銘柄を愛好します。また、キャッシュやサステナブル投資を含むポートフォリオの耐性強化につながる資産を愛好し、米国国債についても、他の国債よりも利回りがあるため、ポートフォリオの緩衝材として注目します。不透明感が強い局面では、国債へのアロケーションが有効であることは認識していますが、株式の急落に対する緩衝材としての機能が低下し、利回りが歴史的に低い水準から反転するリスクもあるとみています。

Key views

現在の市場の動きは金融危機を思い起こさせる。しかし、経済と金融システムは以前よりも強固になっており、2008年とは異なると考える。

景気は拡大基調が続くと考えるものの、コロナウイルスによって拡大サイクルの終了が早まるのを防ぐため、政策担当者が金融政策や財政政策で踏み込んだ行動をとることが求められている。

リスク資産に対する投資は一定程度維持すべきと考えるものの、質の高い株式の銘柄やキャッシュ、サステナビリティ関連への投資を通して耐性を重視すべきと考える。

Bulletin

March 2020

BlackRock
Investment
Institute

重要事項

当レポートの記載内容は、ブラックロック・グループ（以下、ブラックロック）が作成した英語版レポートを、ブラックロック・ジャパン株式会社（以下、弊社）が翻訳・編集したものです。また当資料でご紹介する各資産の見通し（米ドル建て）は、米国人投資家などおもに米ドル建てで投資を行う投資家のための見通しとしてブラックロック・グループが作成したものであり、本邦投資家など日本円建てで投資を行う投資家の皆様を対象とした見通しではありません。

記載内容は、米ドル建て投資家を対象とした市場見通しの一例として、あくまでご参考情報としてご紹介することを目的とするものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではなく、また本邦投資家の皆様の知識、経験、リスク許容度、財産の状況及び金融商品取引契約を締結する目的等を勘案したものではありません。記載内容はブラックロック及び弊社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。各種情報は過去のもの又は見通しであり、今後の運用成果を保証するものではなく、本情報を利用したことによって生じた損失等についてブラックロック及び弊社はその責任を負うものではありません。記載内容の市況や見通しは作成日現在のブラックロックの見解であり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し予告なく変更される可能性があります。またブラックロックの見解、あるいはブラックロックが設定・運用するファンドにおける投資判断と必ずしも一致するものではありません。

投資リスク・手数料について

・投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、組入れられている有価証券の値動きの他、為替変動による影響を受けます。これらの信託財産の運用により生じた損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。したがって、投資信託は元金および元金からの収益の確保が保証されているものではなく、基準価額の下落により投資者は損失を被り、元金を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては各投資信託の投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

・手数料について

弊社が運用する公募投資信託については、ご投資いただくお客さまに以下の費用をご負担いただきます。

■ 直接ご負担いただく費用

お申込み手数料：上限4.40%（税抜4.0%）

解約手数料：ありません。

信託財産留保額：ファンドによっては、信託財産留保額がかかる場合もあります。

投資信託説明書（交付目論見書）および目論見書補完書面の内容をご確認ください。

■ 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬：上限2.6158%（税抜2.378%）程度

■ その他の費用

上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。（その他の費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。）

※リスク及び手数料の詳細につきましては、投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。

お問い合わせ先

ブラックロック・ジャパン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第375号

加入協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 投資信託協会、日本証券業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

ホームページ <http://www.blackrock.com/jp/>

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号 丸の内トラストタワー本館

BlackRock